



2017年6月14日

リコージャパン、ドイツメーカーと3Dプリンターの販売特約店契約を締結 ～商品ラインアップを拡充し、幅広いご要望に対応～

リコージャパン株式会社(社長執行役員:松石秀隆)は、この度、ドイツのグラッドベックに本社を置く3Dプリンターメーカー、EnvisionTEC GmbH(エンビジョンテック)との間で、日本における3Dプリンターの販売特約店契約を締結しました。リコージャパンはEnvisionTEC製の産業用3Dプリンターを、2017年中を目処に販売開始し、消耗品と保守サービスの提供までトータルで対応いたします。

＜リコーグループの3Dプリンター関連事業＞

近年、製造業では顧客ニーズの多様化に対応するため、短期間での製品開発プロセスが求められています。こうした背景の中で3Dプリンターは、設計データから試作品や最終製品を手軽に造形可能で、時間とコストの削減に貢献できるとして、導入が進んでいます。

リコーグループは、20年以上にわたる3Dプリンターを活用した製品設計の実績と、試作や金型などで培ってきた加工技術を有しており、これらのノウハウを活用した3Dプリンター関連事業を展開しています。自社製の3Dプリンターの販売をはじめ、未導入のお客様に対しても、コンサルティング～3Dデータの設計～造形/納品まで一貫したサービスを、日本をはじめ欧州など海外でも提供しています。

＜契約締結の狙い＞

この度の契約締結により、リコージャパンは3Dプリンターのラインアップを拡充し、お客様の幅広いご要望にお応えします。

EnvisionTECは、主に試作品の製作用途の3Dプリンターとソリューションを世界60カ国以上で提供しており、高いシェアを誇っています。リコージャパンは、同社商品の日本での販売および消耗品と保守サービスの提供までトータルで対応することで、事業の拡大を図ります。

＜EnvisionTEC製3Dプリンターの特徴＞

EnvisionTECの3Dプリンターは、DLP^{＊1}および高速光造形方式^{＊2}を採用しており、高精細かつ表面が滑らかな造形物の製作が可能です。100件以上の特許に基づく同社独自の技術を保有し、高品質と高生産性を両立しています。また、40種類以上の3Dプリンターと70種類の造形素材を取り揃えており、簡易試作から高機能試作まで幅広く対応することができます。

リコージャパンは、東京ビッグサイトで開催される「設計・製造ソリューション展」(2017年6月21日～23日)に出展し(東1ホール42-50)、EnvisionTECの商品展示をはじめ、3Dプリンターを活用したさまざまな業務改革のご提案を行います。

リコージャパンは今後も、拡大する3Dプリンター市場への商品やソリューションの投入により、製造業のお客様を中心に、業務改革のご提案を進めてまいります。

■EnvisionTEC の概要

- ・事業内容：3D プリンターおよび造形素材の開発、製造、販売、サポート
- ・本社所在地：ドイツ グラッドベック
- ・設立：2002 年
- ・累計出荷実績：7,000 台以上(2016 年時点) ※デスクトップを除く

*1 DLP :Digital Light Processing の略。プロジェクターによって紫外線を照射し樹脂を硬化する方式。

*2 光造形方式：光硬化性の樹脂を紫外線レーザーで一層ずつ硬化させて積層していく方式。

※会社名および製品名は、それぞれ各社の商号、商標または登録商標です。

| リコーグループについて |

リコーグループは、ドキュメントマネジメントシステム、ITサービス、プロダクションプリントソリューション、ビジュアルコミュニケーションシステム、デジタルカメラ、産業用製品・サービスなどを世界約200の国と地域で提供するグローバル企業です(2017年3月期リコーグループ連結売上は2兆288億円)。

創業以来80年にわたり、高い技術力、際立った顧客サービスの提供と、持続可能社会の実現への積極的な取り組みを行ってきました。

想像力の結集で、変革を生み出す。リコーグループは、これからも「imagine. change.」でお客様に新しい価値を提供していきます。

より詳しい情報は、こちらをご覧ください。 <http://jp.ricoh.com/>